

総菜の無人販売サービスに力

愛知共同企画

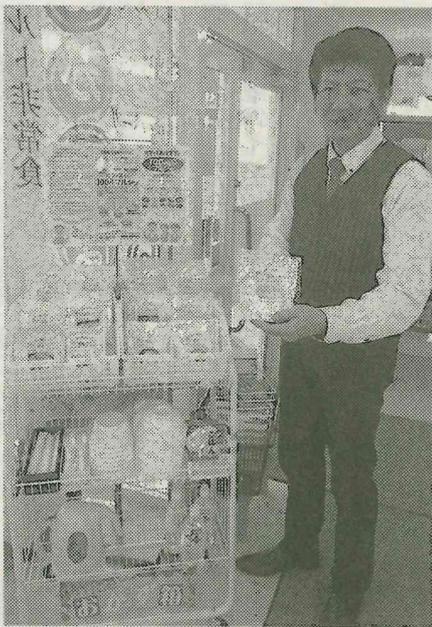
従業員の福利厚生に

軽貨物運送の愛知共同企画(本社名古屋市中川区松葉町、富安英樹社長・電話052・369・2237)は、職場にレトルトの総菜などを常備して食べた分だけ代金を支払う無人販売サービスに力を入れている。従業員への福利厚生サービスや災害時の備蓄食になる利点に加え、サービスの管理・運営の一部を就労支援事業所などの社会福祉施設で働く障害者が担っており、社会貢献につながることもアピールする。名古屋を中心に顧客を開拓。現在5社と取引しているが、5年後をめどに300社に増やす方針だ。

(桒田宏行)

管理・運営の一部、福祉施設に委託

同社は、総菜の無人販売サービスを手掛けるシエicom(愛媛県西条市)の代理店となり、「100en(縁)マルシェ」の名称でサービス展開している。愛知共同企画は契約した職場にレトルトパックに入った総菜、スープ、ご飯類を並べた専用棚を設置。従業員は食べたい商品を選び、代金(1袋当たり100円)を料金箱に投入する。メニューは和・洋食の約30種類を用意。煮物やハンバーグ、カレーや豚汁など



「100en(縁)マルシェ」のサービスをアピールする富安社長

の総菜を豊富にそろえている。サービスを導入する企業側が負担する料金は商品の種類や備蓄数によって異なる。ご飯10袋と総菜30袋がセットで月額1万円から。商品補充や代金回収はスタッフが定期的に巡回する。夜遅くまで働く従業員のいる職場や交代勤務制のある職場で、福利厚生として利用してもらいたいと考え。また、災害時の常備食としてもアピールする。さらに社会貢献につながることもアピール。同社は、管理・運営業務の一部を福祉施設に委託。名古屋では、社会福祉法人みなと福祉会「わーくす昭和橋」(名古屋市中川区)で働く障害者がレトルトパックの袋入れやシール貼りなどを担っている。サービスの利用料金の一部が工賃として支払われる

仕組み。現在、業務委託先はわーくす昭和橋と、社会福祉法人愛燦会「あいさんハウス・ぎふ」(海津市)の2カ所。今後も委託先を増やすという。

富安社長は「働く職場で24時間いつでも手軽にご飯が食べられる。サービスメニューの周知を図り、顧客を増やしていきたい」と話している。



わーくす昭和橋で働く障害者が袋詰めした証として、「わ」のシールを貼り付けている

愛知共同企画は2016年9月に設立。食品などの軽貨物運送が主力で、17年9月期の売上高は3千万円。